夕刊 磐城新聞
十月二日發行
發行所 磐城新聞合資社
(日曜祭日翌日休刊)

農民文藝としての童謠詩(三)

市川健次

お牛

観音さまが現はれるのを見たとお牛はいふのです。

観音さまは
雲に乗り
日ぐれの空を
とほられる
お牛がうたを
うたふたら
上から花を
投げられた
お牛十三
親なしで
村に育つた
呆け娘
呼べば鼻ん棒
舐めながら
赤ん目をして
逃げてゆく
(柴木集)

田園山野の繁激に過ぐる肉体勞働に追はるる農民にとつて、その藝術的情緒の渇望を滿さんが爲に長き時間勞力を要するものなどは到底不適當である。例へば柴刈後又は耕作後の刻み煙草二三服を喫する暇にもよく口誦み味ひ得る底の短い表現形式のものであらねばならない。この點に於ても簡素なる童謠詩は最も農民生活に適合した詩形であり得る。この僅かに四聯をもつて構成された童謠詩『お牛』の一篇に於て、作者は『お牛』の劇的な境遇を展開し、お牛の童形をほうふつと描き加ふるに痴呆のお牛を假りて敬虔且つ華やかなる神秘的幻想をもつてしてゐる。この幻想は決して現實なる呆け娘お牛の幻想ではないであらう。否お牛すら假空の人物であらうかも知れぬ。それらはこの作品鑑賞に際して些も問題ではない。夕ぐれの雲に乗つて花をなげかけて通られる観音さまの尊くも華やかなお姿、その美しい作者の夢を呆け娘お牛に托したところに却つて妙味はあらう、繰り返して言ふ。稚愚、無閑の農民にはやゝこしい或は長たらしい形式の文學論議な哲學論宗敎論のたぐひは到底堪え得らるるであらうか。童謠詩は又一面いはゆる『ゲテモノ』でなければならぬ。上手ものと離れて市井に使ひさらされる有り觸れた皿類の如くその中にも高古の風韻を備へたる、下手ものゝ持つ特種の妙味がなくてはならぬ。

わが村
旅商人も
入れまいと
まづしい村の
立札よ
顔の見えない
日ぐれまで
みんな出てゐる
田のしごと
家へかへれば
弟が
くどの前から
立つてくる。
(柴木集以後の作)

多くの言を要せぬこの一篇の童謠詩の底を流るるものそれは眞實に描いた深刻な農民の生活である。この現實的な社會的意識の上にも童謠詩は今後多くの飛躍すべき分野を殘してゐると思ふ。

芽だち─
蝶々がでて
飛んでます
ぼやけた金の
春の月
さくらも空に
過ぎました
こまかな夢が
うつくしい
月夜の濕る
新芽だち
牛の匂ひも
みちてゐる
脊戸は檜山
しろじろと
晝間のやうに
ひく霞

自然詩觀の表現に專ら客觀的かつ繪畫的な描出に據つて印象を積みかさねて行くのは島田忠夫の童謠詩の多くの行き方である『芽だち』においても、春の月夜の醍醐味は實にしつとりと心にくきまで彼の描出によつて予等の心に印象づくるのである。あたかも目のあたり風景畫に接する思ひがするばかりでなく繪畫に依つては到底求め得られない自然の再現でもある。これ亦、童謠詩の最も手中のものとする所である、農民文學と童謠詩との關係及び童謠詩の本質に就いては大體右に止めやう。(附記『柴木集』岩波書店發行。島田忠夫著。)

折に觸れて(二)

柴木散人

惡しざまに罵る人の口を見居り山にぞ棲まむ猿にかも似る

惡しざまに政敵謗ず人に會へりみ山にをたけぶ猿にかも似る

惡しざまに末法を呪ふ僧の顔み山の奥の猿にかも似る

罵りの言は吐かねどひしひしと何か打つもの針のごとくに

時代發語(外鶴)

○『如何にして人は己を知る事を得べきか、省察を以てしては決して能はざらん、されど行爲を以てしては或は能くせん。汝の義務を果さんと試みよ、やがて汝の義務とは何ぞ日の要求なり』これはギヨオテの詞である、日の要求に安んせない權利を持つてゐるものは恐らくは只天才ばかりであらう……(分身)

拈華微笑

我子の爲に小兒保險の美田を買つた人第一日目に五十二名 ◇ 息もつかせぬ政友會の祝賀會。

第三者迄面喰ふ民政派の內訌。◇ 一擧一千名の川浚ひ。聞くだに氣持ちの良い快擧ではある ◇

大衆讀ものになりそうな瀆罪の剃髮 ◇ 接客業者の一割五分がトラホーム其迄サービスされては大變だ

小名濱小唄

小濱牧泉

(一)
胸にたたんだ片戀も
ひと目を忍ぶ相愛も
どうでしまひにや泣けるのさ
同じ苦勞のかきどころ
ここは一本松古ベンチ
下にや波止場の灯がうるむ

(二)
日暮れ照島はなれ島
鷗ひとりの通ひ島
わしもなりたや濱千鳥
泣いて照島陽が沈む
海の向ふにや陽がてつて
夢の日立のうすげむり

(三)
泣けぬ意氣地の戀故に
おくれ一かんでバチをとる
濱の藝者のせつなさに
鐘がなるなる暮の鐘
せめてつくらふかきぼくろ
女の悲しい夜がくる

(四)
粹なルンペン菜つ葉服
橋のたもとでプロの唄
あのもこの面に灯がついて
沖の燈臺見えがくれ
ここは小名川戀の橋
インテリ。プロレの戀の唄

(五)
古い心と笑はれて
ちつとこらえた胸の渦
讓つた戀のやるせなさ
誰に思ひを鹿島樣
暗い夜更けの裏通り
粹なお方となせまねく

10月3日

△大津皇子叛死す(朱鳥元)△江華島事件生ず(明治九)△英露復交協定調印(昭和四)△獨軍アントワープを攻撃し飛行機三十隻を捕獲す(大正三)△イリアス、ホウ歿す、後に米國紐育に移住す、裁縫機の發明者也、始め貧窮零落の極に陥りしが特許權の保護により悲境を脱却して二百萬弗の所得を獲たり

一日一禪(二、八六七)

○
大地撮來粟米粒
一毫頭上現乾坤

講談 俠艷 女長兵衛

東京 斯波南叟
(魚崎潮畫)

(三〇)

喜助は昨夜お蝶から貰つた三十兩の金子が有ります元金が十兩だから是れ丈あれば借金を返し、娘のお露を連れて歸れると思ひ勢ひ込んで三河島の熊五郎の家へ飛付けました 喜『お早うございます』表を掃除して居た熊五郎の子分が。子『大層早く來やがつた、何んだ〜』喜『急に親方にお目に懸りたい事が出來ました、一寸お取次を願ひます』子『いけねい〜、親分は夕べ大層遲かつた、まだ寢込んで居なさる、用があるなら出直して來い、斯う其處に突ッ立つて居やがつちやア掃除が出來ねへぢやアねへか、此の唐變木め!』喜『あッ是れはお邪魔でしたか、急な用でございますから、親方さんをお起し申して下さいまし！』子『いけねヘッたら、譯の判らねえ奴だやアねへか、折角寢込んでお出でなさる、それを起して見ろ大目玉が飛ぶんだ、目玉だけなら好いが、疳癪持ちの親分だ、直に拳固が飛んで來らア出直せ〜』喜『それが出來ない程の急用、昨晩親方さんの仰しやるには、明日は幾ら早くても好い、早い程此方の都合だ、成だけ早くとございました、起して下さつても喜助と聴けばお腹立ちはありません、是非どうか……』子『喧しいや、いけねへ〜』果ては相手にせずサッ〜と庭の方へはいて廻つて往く、喜助も仕方ないから表格子をガラ〜明けて 喜『御免下さいまし、お早うございます、入谷の喜助でございます』と呼んだが、誰も返事をするものが無い、と言つて無闇に他人の家へ上り込む譯にも成らない、多分熊五郎等は昨夜遲くお露を擔いで來た、其疲れで寢込んで居るのだらうと思ふと、お露の身が案じられ、居ても立つても居れぬ氣が致します最う一度庭掃除の子分を賴んで見やうと外へ出て探したが、何處へ行つたか子分の姿も見當らない……あゝ何うしたら好いだらう……と彼方此方と當もなく、歩いて居るうちに……オ、然うだ、斯うして待つて居た迚何時逢へるか判らない、夫れでは此の間に一走り昨夜のお情ある旦那のところへ行つて此の始末をお話し申上げて來やう、根岸の御行の松までは幾らもない、行つて來やう大概眼が覺めて居るだらう確か門の表札に花井と書いてあつた、花井の旦那樣のところへ……斯う氣が付いたから跡戻りをして、根岸のおてうの家の門を潜る 喜『お早うございます』お勘が臺所口からヒョイと顔を出して 勘『何んだい』と不思議さうな顔此の婆あさんは餘程の寢坊だと見えて、夕べの一條を少しも知らないらしい。喜『旦那樣に一寸お目に懸りたいんで……』勘『旦那樣！ハテね御本家の旦那樣は此方へ來てお出なさらないが、外に旦那などは……』喜『イエ、昨晩此方で旦那樣にお目に懸りました、其旦那樣に入谷から喜助が來たと仰しやつて下されば直に判ります』勘『夕べきたとね、お前寢惚けて居るのではなないか、變な人だ殊に旦那樣などは在りやあしない、女許りで……』と言掛けた時、間の障子がスーッと開くと、顔を出したのがおてうの長兵衛でございます 蝶『誰かと見つたら夕べの喜助さんだね』喜『オ、旦那樣、昨晩は飛んだお邪魔を仕りました、少し急にた話し申上げたいことが出來まして……』蝶『あゝ然うかね、私は今起きた許りのところだ、お勘や是れは私の知り人だ、奥へ座蒲團を出してお呉れ、夫れから茶を入れてね』勘『オヤ〜斯んな人を……私は初めて逢つたのですが、何だかキョロ〜して眼付が惡い、斯う云ふ淋しい場所に居ると、眼付の惡い奴は泥棒ちや……』蝶『何だいおや無い、能く來なさつたサア〜其方の格子戸の方から入りなさい』喜『へエ有難う存じます』と玄關へ廻る。

ラヂオ

仙臺JOHK …三日(土曜)…

△前六、三〇A、ラヂオ體操 △九、〇〇A 氣象通報 △九、一〇 料理獻立(肴の巴卷)磐井たす 日用品値段 △一〇、三〇A 家庭講座(トマトケチヤツプの作り方)河内捨松 △正午 A時報 △後〇、〇五A映畫物語(源太時雨)二關紫好、宮野顯 △〇、四〇A ニユース 氣象通報 告知事項 △一、〇〇A 水上競技(第六回明治神宮体育大會水上競技大會兼六年度大日本選手權競技大會狀況)△二、二〇 六、〇〇A 運動競技(秋季六大學野球リーグ戰試合狀況…明帝一回戰)△一、〇〇 △一、五〇 △三、三〇A 經濟市況 △三、四〇 氣象通報 △三、五〇 經濟市況 △四、〇〇 ニユース △五、三〇A 經濟市況 △五、四五 今晩の番組豫告 △六、〇〇A(子供の時間)お話(動物を大切にしませう)農學博士 法學博士 新渡戸稻造 △六、三〇A 英語講座(中等科)トーマスライエル △七、〇〇A ニユース 氣象通報 告知事項 生繭相場 番組豫告 △七、三〇A 講演(最近の土耳古)內藤智秀 △八、〇〇A 長唄(越後獅子) △八、三〇B 寸劇(秋のユーモア)食滿南北作、音調座 △九、〇〇B 室內樂 ピアノ…レオ・シロタ、外ヴアイオリン、チエロ…二人 △九、四〇A 時報 ニユース 氣象通報 番組豫告 生繭相場

廣告

木村病院
平町新川町
電話 一六四番

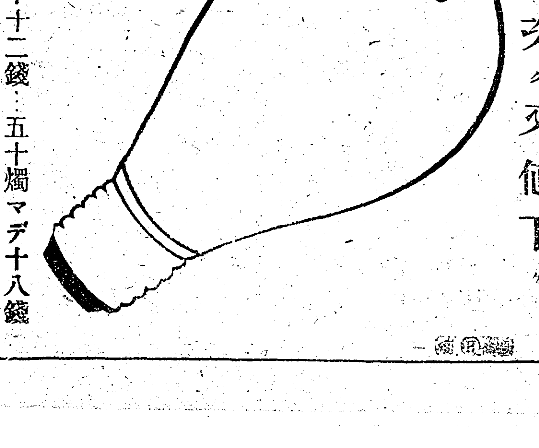
高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 內科部 專門
花柳 淋病 皮膚病 婦人病 外科部 專門
胃腸病 性病 松村醫科院
(平南町電話一〇七番)

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ(松崎ニ)
三九二タクシーヘ
(デンワ、ミクニ)

輕費診療開始
(共濟病院)
郡內卅四ケ町村の囑託により六月一日より輕費診療を開始す
◎診療科目 內科 小兒科 外科 性病科 皮膚科 産婦人科 物理療科 耳鼻咽喉科 X光線科
◎診察料 共濟會員 無料 輕費診療 五十錢
◎藥價一種一日分 共濟會員 十錢 輕費診療 十五錢
◎入院料一日分 共濟會員 輕費診療 一圓以上
院長 醫學博士 石山謙郎
本院 主管 賀澤忠治
◎衛生試驗 醫化學的檢査は何でも致します遠慮なく御利用下さい
◎公休日は廢しました
尚御不明ノ點ハ各町村長並ニ本院ニテ御遠慮ナク御聴キ下サイ
磐城 共濟會
電話六四一番

ガス入電球ノ値下ゲニ次グ又値下ゲ



十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院
眼鏡科
電話十九番

吉田眼科病院
平町紺屋町

貸切は●●
親しみあるサービスを以つて知られたる！
尼子タクシーへ
電六四〇番
主任 澤 正路

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅舘
須藤まつの

我子可愛の親心から 初日の加入五十二口

意外の好成績を收め得た（小兒保險實施早々の平局）

遞信省が全國一千四百萬の小兒にも簡易保險の特典を與ふべく創始した小兒保險は既報の如く愈々昨一日から平局でも十名の係員を以て全町に亘り大々的活動を試みた結果咄嗟の宣傳で一般周知の程度を危ぶんだに拘らず一擧にして五十二口此の掛金三十八圓五十錢の加入者があつたので開始早々の好成績に力を得引續き活動中である

鈴木幹事長を迎へ 政友派三名の當選祝賀會

來四日內郷村磐城劇場で 好間でも明三日準備協議

縣下の大勢に逆行し最高點より順次公認三名を當選せしめて戰捷の氣分に滿ちて居る政友會石城郡部會では既報の如く過般逸早く平町聚樂館に於て井上、田子、赤坂三氏の當選祝賀會を開催し大に氣勢を昂げたが更に明後四日は內郷村島田粂吉、四家又一、佐藤三平の諸氏發起の下に午後二時から鈴木縣支部幹事長等を迎へ同村磐城劇場に於て同樣三氏の當選祝賀會を開く外好間村有志も近日中同樣の祝賀會を開催すべく明三日午後三時から中好間木田彌平氏方に有志の協議會を開く事となり大平新吉、金成角治兩氏の名で夫々案內狀を發した

平商生軍事教練 五年生三十九名が

十二日仙臺工兵大隊へ

平商業學校五年生三十九名は教練に關する實地見學をなし且つ團體的實生活を體驗し仙臺地方の商工業及地理歷史の事蹟を知るため十二日より四泊五日間駒場配屬將校服部敎諭引率の下に仙臺第二師團工兵第二大隊へ見學旅行する事となつたが旅行日程は左の如くである

△十二日平驛發午前八時二十分、師團司令部及青葉城見學、工兵々營宿泊 △十三日執銃各個教練、工兵爆破演習及工兵作業見學 △十四日執銃各個教練、仙臺商業學校教練見學 △十五日執銃各個教練、仙臺市內及松原見學 △十六日執銃部教練、疎開戰爭、仙臺驛發午後二時十分、平驛着同六時二十分

一千名が出動し 大仕掛の川浚ひ

明後四日の公休當日 磐炭從業員の奉仕

磐城炭礦では明後四日の公休をトし午前七時から奉仕豫定一千名の勞力を以て地元村民と協力し同炭礦地帶を貫流する宮川の浚渫を行ふ事となり左の如き印刷物を配り全山從業員の參加を求めつゝあるが近來の美擧として各方面の共鳴を受けてゐる

志ある人々の奉仕的精神に訴ふ

△宮の川筋は村の人々が會社と協力して毎年浚渫を行つて來ましたがそれでも流れ込む泥やゴミのため川が埋まり雨降りのたび浸水する家屋が少なくありません

△このまゝでゆくと大正十一年の大洪水のような悲慘なことが再た來ないとも限りませんから今年は徹底的に川ひ浚して見たいと村の方々から御相談がありました

△九月の役付聯合會にもはかりましたところ全會一致此際村の人々と協力して是非やらうではないかと云ふことになりました

△從業員の皆さん折角公休のところ御苦勞に存じますがお互のため社會のためですから當日は全山一致協力此の難事業を完成しようではありませんか

一、來る十月四日公休日午前七時より正午頃まで

一、とうぐわ。すこつぷ。たがら。等をもつて來て下さい云々

罪の贖ひ「剃髮も効無く 懊惱して其筋へ

罪の恐ろしさに戰く 元小名濱校の職員

本年四月中繼續的に小名濱小學校に忍び入り時計靴其他敎員兒童の所持品を竊取した廉により其筋の取り調べを受け宅控え中逃走行衞を晦ました爲め起訴中止被疑者となつてゐた元同校職員小名濱町仲明神町三四鈴木博(三四)は昨一日午前八時頃悄然として平署に自首して出たので係官が其間の消息を訊くと同人は前科者となる事を極度に怖れ各所を逃げ廻つてゐたが自分の犯した罪惡から馘首された弟正夫(三三)假名の身の上や親達への不孝を思ひ煩ひ良心の苛責に堪えず新潟の某寺院で剃髮し出家の生活に入つたが其處でも安住の地を見出せず懊惱の結果茲に至つたものと判明即時送局したが起訴猶豫となつた

美化さるる磐中

作業秋の成績

縣立磐中では昨年より作業科を設けて着々校庭の美化に力め此程講堂側樹木約半數を玄關前に移植を了し殘餘に對し目下一年生が必死努力中であるが水道の足洗場の如き普通の請負坪五圓八十錢を要する處を一年生が職員指導の下に二圓八十錢で仕上げたなど全校生徒の奉仕により逐日校の內外が美化されてゐる

上小川に破藏師

商品其他廿數點を盜む 犯人嚴探活動中

昨一日午前零時半頃小川村大字上小川字高崎一二二呉服商佐藤長四郎方土藏を破つて反物黄金佛像外數點計二十二點價格二百五十餘圓分を竊取逃走した賊あり訴へ出でにより目下平署で犯人嚴探中

在滿兵家族 慰安の協議

けふ愛婦幹事會で

愛國婦人會平分區では曩に各幹部の活動奔走により二百個の慰問袋を在滿兵士に贈つたが今回更にその家族に對し何等かの慰安方法を試みる事となり今二日午後一時より幹事會を開き夫々協議の結果平婦人會及び女子青年團の代表を加へ來五日頃を期し縣社子鍬倉神社に於て武運長久と家內安全の祈願祭を執行し其の護符を以て該當各戶を歷訪する事に決定した

局員慰安會

新舞子の淸遊に 選擧の骨休め

選擧郵便物で連日忙殺された平郵便局では從業員慰安の爲め男百四十一名を三、四日の兩日に亘り交代で新舞子方面に淸遊せしむる筈

金成家慶事

植田水力電氣株式會社長金成通氏嗣子增彥氏は元代議士安島重三郎氏夫妻の媒酌により磐崎村大平正次氏令妹サイ子孃と婚約整ひ五日華燭の典を擧げ六日午前十時から錦村の自邸に於て披露の宴を催すと、因に新郎は磐中より東京帝大經濟學部を出で現に富士電氣に勤め大に將來を囑目されつゝある秀才。新婦は磐城高女卒業後引續き女藝一般を修めて今日に至つた才媛である

敬老會に資金造成に

平町女子青年團活躍

平町女子青年團では事業資金造成のために來る七、八の兩日午後六時半より平舘で映畫會を開催するが同會では尙ほ十一日午前九時より平第二小學校で第三回敬老會を開催し八十歲以上に達する町內約六十名の高齡者を自動車で送迎し兒童の唱歌、遊戲、其他餘興及團員の手料理記念品等慰安の最善を悉くし午後二時頃閉會の豫定であると

五色町遊廓崇らる

不景氣に選擧騷ぎで 去月中の目立つた減收

平町五色町遊廓の先月中の水上げ高は不景氣の打擊と選擧騷ぎの餘沫を受け金高人員共に昨年同期より減少し登樓者七百六十人消費金高一千七百五十圓この一人當り二圓三十錢平均で昨年の八百二十七人金高二千二百五十圓一人當り二圓七十錢に及ばざる事程遠いものがあるが之れと反對に南町方面に於ける酌婦の進出は甚だしく平署に一日二名宛平均の屆出がある

第三區會 競技 四日高月で

郡第三區小學兒童競技會は明後四日午前九時から磐中校庭に開催されるが參加は(尋常科)一部平第一、同第二、同第三、內郷第二、同第三、好間高、赤井第二、小川 二部 內郷第一、好間尋、平窪、飯野、川前、桶賣、赤井第一 (高等科)一部平第一、同第二、內郷高、好間高 二部 平窪、飯野、赤井第一、同第二、小川の三十一校で次回日曜第一第二校庭に變更開催すると

小學敎員野球大會

濱三郡の精銳參加

郡敎育會主催の濱三郡小學校敎員野球大會は來二十五日平第一校庭に於て行ふ筈

縣下兒童ドッチボール大會

縣下小學校兒童ドッチボール大會は來る十一日午前九時から磐中校庭に開催されるが參加校は約十八校昨年の優勝校は尋常科平第一、高等科久之濱で平校では目下必勝を期して猛練習中である

四千の接客業者中 羅病者が一割五分

平署の虎眼檢診成績

平署では此程管內接客業者のトラホーム檢診を行つたが檢診人員男千七百五十六人女二千三十七人計三千七百九十三名中一割五分强の五百七十三名が羅病者と判明したので徹底的に治療せしめる事となつた

種別	男	女
重症	一九	六〇
輕症	一三三	二八九
疑似	六	一六
計	一五八	三六五

吉田校長出席

平商業學校長吉田利吉氏は來七日より一週間秋田市に開催される東北六縣北海道實業學校々長會議に出席する事に決定

南州獨演會

磐炭勞務課主催の伊藤南州獨演會は四日午後一時から內郷村昭和館に於て開催『忠僕一心を貫く』『女傑安藤芳子』に就て得意の快辯を揮ふ筈

○○○○○ 助手告發さる

平町四丁目自動車助手關根一二(二九)は去月十三日無免許で乘合自動車を運轉中誤つて三丁目三井呉服店の飾窓硝子價格百圓を破壞し今二日告發さる

平町新風景

秋夜の旋律

新田町の四疊半裡 爪彈きに纏はる愉悅

今年も既に十月の聲を聞いては秋愈々閑けてスピーカーを流るる『音樂の夕』に適はしいシーズンとなつたんです。妙なるメロデーの持つ、あの神秘な音律と音色とは、何人の魂をも魅了せずには措くまい、まさに音樂こそ淋しき者の優しい母であり惱める胸へのよき慰め手なんです。

0

『音樂の無き人生は砂漠の砂』である、椰子の葉蔭に響くギターの音にも、忍び寄る秋雨の中に聽く三味線の爪彈きにも音の作る神秘の幽境があるんです、然らば音とは何か、どうして發現するものか、科學者の耳は音の解剖に冷たいメスを振つた、樂聖ハイフエッツは去る夜東劇のステーヂから數萬の聽衆を醉はしめたんです。

0

彼の奏でるヴアイオリンを耳にする事が出來なかつた吾々タヒラつ子は取り敢へず新田町の樂手によつて四疊半裡哀切な爪彈きのメロデーに醉はふぢやありませんか、琥珀色の芳醇な處をチビリチビリ遣りながらだん〳〵琴々と波うつて來る心臟の快い鼓動を覺え乍ら白魚の樣な纖手の奏でる切々啣々の旋律は多恨の士を驅つて涙ぐましい法悅の國に導くんです。

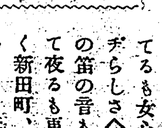
0

聽く耳有たぬ新田町スアンにはジンバリスト、エルマン、ハイフエッツなんて巨星の提琴などよりは彼女等の横抱きにした三味に多くの親しみを感ずるんです。ムーン、ライトの名曲よりは所謂咽ぶが如く訴ふるが如き義太夫のさはりの方が遙かに嬉しいんです。

0

─絃絃掩抑して聲聲思ふ。又平生志を得ざるを訴ふるに似たり。眉を抵れ手に任せて續々彈ず─琵琶行(白樂天)の文句擬きに飛んだセンチメンタルになる時彼氏の紙入れからはY5の嬉しい紙片が飛び出すんです。上氣した樣な二人の顏は輝かしく乳色の瓦斯入電球にクローヅ、アップされて思ふ存分啜り泣き度い樣な長い秋の夜は雨の如き虫の音に更けて行くんです。

艶罪黑白



◇他人の選擧を頭痛に病むとか、や況して大事な主さんの當選を神に願ひをかけまくも、茶斷ち、鹽斷ち、シヤチ鉾立ち、情を立てるも女心のいぢらしさ◇按摩の笛の音も絕えて夜るも更け行く新田町、裾もあらわに素足に砂利をかませて丑の刻詣り、自動車のホロのような尻をならべて神前に額づいてる恰好は、見る人感じあへぬはなかりけり◇さるほどに明けて嬉しき投票箱第一位の當選と電話の報告に！『ホントに御利益は有難いものね、お願ひしたのは正一位お稻荷サマだつたもの』と齒莖まで出して笑つた、嬉しそうな顏わいな……。朗かな話ではある。

四倉繭市場

四倉繭市場昨一日の取引相場次の如し

總貫數八百四十四貫、最高二圓八十四錢、最低二圓十二錢、買馴二圓六十六錢

四倉通信

○○○○○ 刺繡編物講習會 四倉女子青年團主催の編物並刺繡講習會は明三日より三日間四倉小學校內に於て開催する

鰯豐漁 四倉濱では昨一日鰯約五千貫の漁獲あり引續き豐漁の見込みで活氣を呈してゐる

廣告

芳醇無比 白馬の雪 松本德一吟釀 平電話二八五二

增田耳鼻咽喉醫院

秋冬衣絹綿布大賣出し 十月五日ヨリ七日間

三十年以來の新安値 大暴落品!!!入荷 御婚禮用品秋冬衣最新柄を豐富に取揃へ大廉賣可仕候……是非御用命願上ます

御婚禮花嫁御衣裳特賣

松	江戶褄 丸帶	白紋羽二重下着 緋紋羽二重襦袢	金四拾五圓
竹	江戶褄 丸帶	白縮緬下着 緋縮緬襦袢	金七拾圓
梅	上等江戶褄 丸帶	白縮緬下着 綸子長襦袢	金九拾圓

京染無料 紋ニユーネス、山繭御買上の方にお好みの色を別染致し升

白生地特價 紋ニユーネス 一三、五〇 白 繭 二三、五〇

小紋錦紗 八圓ヨリ　仙臺平袴 金拾圓ヨリ
金波羽織無地 七圓五十錢 同　黑羽二重紋付 金八圓 同
村山大島 六圓五十錢 同　縮緬紋付 金八圓 同
本場銘仙 三圓 同　高貴織 金四圓 同
銘仙夜具縞 三圓五十錢 同
三河正紺縞 五十八錢より　新柄着尺モス 二圓九十錢
紺織 八十八錢同　綿ネル(白、時、一火モノ) 五十錢
木綿裏地 四十五錢同　ニコ〳〵絣 八十錢
正紺フトン縞 五十錢同　瓦斯大島半天地 四十五錢
正花裏地箱入 七十錢同
⊠吉凶御引物は特に廉價に御願ひ申します

三井呉服店 電話三八番 二八四番

秋の中折帽特賣

生地に・染色に・色彩に 31年秋の最新流行中折帽子を五種のベストプライスで提供致し升

58 60 80 90 1.30

鳥打帽子 三五より　ベーレ 二五より

電353 平5丁目 モリタヤ洋品店

仲秋淸涼の候彌々御淸適奉南賀候陳者過般の縣會議員選擧に際し愚弟井上茂作が最高點を以て當選の榮を贏ち得たるは偏に各位の深甚なる御援助の賜に外ならず衷心感佩罷在候今後駑鈍に鞭ち縣政の爲め專心盡瘁する樣可爲致候間一層の御推挽を相仰ぎ度御禮旁々御願申上候 早々敬具

昭和六年十月 東京麴町區飯田町 中野浩忠

各位

めそ丼 金參拾錢
大衆向うな丼 金參拾五錢
特上丼 金五拾錢
蒲燒(一人前) 金五十錢
右弊店特々の勉强振り御試食の程を御願申上升

江戶川うなぎ食堂 平舘前通り 電話六七七番